



名古屋大学 総長
松尾 清一

総長挨拶

Greeting from President Matsuo

私は濱口道成前総長の後をうけ、2015年4月から第14代総長に就任いたしました。

豊田章一郎全学同窓会会長はじめ名古屋大学全学同窓会会員の皆様におかれましては、平素より名古屋大学に対して深いご理解と多大なご支援を頂き、心から感謝申し上げます。

これまで名古屋大学は関係者が一丸となって教育、研究、社会貢献の面で優れた人材育成と素晴らしい業績を挙げてまいりました。2014年には名古屋大学の赤崎勇特別教授、天野浩教授がノーベル物理学賞を受賞され、21世紀に入ってから自然科学領域でノーベル賞を受賞した日本人研究者11名のうち、6名を名古屋大学関係者が占めるといふ快挙をなし遂げました。また、文部科学省が世界屈指の大学を目指す大学を重点支援する「スーパーグローバル大学プロジェクト:トップ型」に採択され、名古屋大学が今後一層の国際化、特にアジア支援、世界屈指の研究成果の創出、教育の質の大幅な向上、を目指すうえで、大きな弾みがつきました。この他にも数々の有力なプロジェクトを名古屋大学では展開しております。より一層の情報発信を心掛けてゆきたいと思っております。

私は名古屋大学全学同窓会こそが名古屋や大学の今後の飛躍的な発展の鍵であると考えております。同窓会員の皆様が世界に誇れる名古屋大学になるよう、全学の先頭に立って努力する所存でございます。名古屋大学同窓会員の皆様におかれましては、これまで以上にご支援とご鞭撻を頂ければ幸いに存じます。



ナショナル・イノベーション・コンプレックス外観
The appearance of NIC (National Innovation Complex)

Contents

松尾総長挨拶	1
Greeting from President Matsuo	
特集1 松尾総長インタビュー	2
Interview with President Matsuo	
特集2 名古屋大学における産学官連携 —社会的価値の創出に向けて—	4
Collaboration between Industry-academia- government in Nagoya University – Towards the creation of social value	
活躍する会員たち	6
NUAL People in Action	
同窓会ニュース	10
NUAL News	
事務局からのお知らせ	20
From the NUAL Office	

松尾総長インタビュー

Interview with President Matsuo

2015年4月、名古屋大学総長に松尾先生が就任されました。就任1ヶ月でのご心境や、名古屋大学の将来像、同窓会への期待および名古屋大学の地域貢献などを、ご自身の経験も踏まえてお話いただきました。

An interview with Seiichi Matsuo, who took office as president of Nagoya University in April 2015. Besides sharing his own life experiences with us, he will give his impressions since taking office, offer his thoughts on the future of Nagoya University and address expectations for NUAL.



松尾 清一 総長

1950年 兵庫県生まれ
 1976年 名古屋大学医学部卒業
 1981年 医学博士（名古屋大学）
 1981年 米国マウントサイナイメディカルセンター研究員
 1982年 米国ニューヨーク州立大学研究員
 1984年 労働福祉事業団中部労災病院内科医長
 1986年 名古屋大学医学部助手、名古屋大学医学部附属病院助手
 1997年 名古屋大学医学部附属病院講師
 2002年 名古屋大学大学院医学研究科教授
 2007年 名古屋大学医学部附属病院長
 2009年 名古屋大学副総長
 2012年 名古屋大学産学官連携推進本部長、名古屋大学社会貢献人材育成本部長
 2014年 名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部長、名古屋大学未来社会創造機構長
 2015年 名古屋大学総長
 専門：腎臓内科学

(広報委員) はじめに、松尾総長がどのような方か、同窓生に向けて自己紹介をいただけますか？

(松尾総長) 私は生まれが兵庫県です。大学受験当時は東大紛争があり、受験生がかなり流動しました。そのため、今のよう医学部には地元の出身者が多いのではなく、私の同級生は本当に全国から来ていました。昭和51年に名大の医学部を卒業した後大学院に入りました。自分が一番変わったのは、大学院卒業後のアメリカ留学です。その時に、地元や母国を離れて、自分の力で苦勞して道を探し、何とかなったという流れがあり、初めて自分のことは自分でするという自信がつかしました。また、私のロールモデルである当時の指導教授は本当に未熟な私と対等に付き合ってくれ、日本とは全く違う経験をしました。留学時代にはやはり非常に苦勞したり、失敗したりしましたが、自分にとっては、そういう大変困難な課題があったり、苦勞したりする時の方が成長するんですね。「失敗と書いて成長と読む」という野村克也元監督の言葉は名言です。

帰国後、2年ぐらい、関連病院へ赴任しました。その後、大学へ戻ってきて、研究以外では、様々な組織改革を遂行した思い出があります。一つは、医学部卒業生の臨床研修を、大学と関連病院全体ですという改革をしました。その後、2002～2003年から、内科臓器別再編と大講座制という新しい動きを徹底し、十数年を経て安定した内科の臓器別再編モデルを作りました。また、私が

病院長をしていた時に病院の基盤整備を強化しました。さらに、国立大学病院経営改善のため、国立大学病院長会議委員長として皆さんと共に国立大学病院全体のグランドデザイン作成という事業も経験しました。そして、大学の執行部に入ってから、産学官連携推進本部の組織統合もしました。いろいろ苦勞はしましたが、それなりに成果は上がって、非常に自分自身ではやりがいがあったなと思っていますね。

(広報委員) 総長に就任されて1か月経ったご心境はいかがですか？

(松尾総長) 一言でいって、非常に大変ですね。課題膨大、責任重大、その中で時間が足りないのが正直な感想ですね。この6年間というのは非常に大変な時期になります。今まで議論された課題や平成28年からの第3期の中期目標・計画期間を含む様々な改革に迫られています。総長としてこのひと月に名古屋大学の目標を達成するための山ほどの課題を整理しはじめました。総長になると、全ての分野の課題を理解するために、担当者と話をして大学の全体や国の方針としてつないで対応することになります。また、最後の判断は総長の責任になるため、ある程度、担当の人と密接に連絡を取りながら、情報も得ながら、指示も出しながらものごとを進めていかないと最終判断ができません。総長選考の時に約束したように、大学の全ての構成員と意見交換を十分にしながらいろいろな

ことを決定していきたいと思います。

(広報委員) 任期中に総長が実現したいことを聞かせてください。

(松尾総長) 個々のことは多分、膨大にありますが、まず、名古屋大学を世界屈指の大学にすることを6年間で目指したいと思いません。日本でも大学の序列が大体決まっています。心の中では何とかして肉薄して追い越そうと思っています。そもそも初めからダメだと思ったら、夢は実現しないでしょう。大体実現したいことを大きくいうと、三つくらいですね。

一番大事なことは名古屋大学の構成員が高い志気を持つことです。モチベーションを上げて、自発的に課題にチャレンジすることだと思います。志気を高めるためには雰囲気作りが必要です。私自身が部局回りを通じ、トップ以外の人とも対話をして情報を集め、全ての部局のことをできるだけ理解しようと思います。また、総長室はオープンにして、私は時間さえ空いていれば、誰がいつ来ても会えるようにしたいと思っています。二つ目は、大学の行動方針のグランドデザインです。名大が目指す目標を実現するために、具体的な課題を立て、その課題を克服するための行動方針いわゆるグランドデザインが必要です。別の言い方をすれば、大学運営改革を意味しますが、なかなか難問ですね。国の競争的資金や様々な外部資金を含む財源を確保しながら、名大が目指す目標を達成するための事業をいろいろ進めると思っています。もちろん、リソースとするお金の確保だけではなく、優秀な人材も確保しないといけないと思います。そのためには環境整備も必要でしょう。

(広報委員) 総長から同窓生あるいは全学同窓会に期待することがありましたらお願いします。

(松尾総長) 一つ目は、全学同窓会と名古屋大学とのウインウインの関係作りです。名古屋大学が世界でも屈指の大学になったら卒業生の価値は上がります。また、名大の卒業生がいる家族の価値が上がります。そのために名古屋大学はきちんとビジョンを示して、同窓会の皆さんに応援していただく関係ができればいいなと思います。二つ目は、各界で活躍する卒業生の力を借りて大学の地位を一段と高めることです。同窓会の中にはいろいろなところで活躍している人もいますし、国や地域のポリシーメイキングなどに非常に大きな影響力を持っている人もいます。是非、同窓会のつながりでそういう人たちの力を借りたいと思います。

海外支部には三つの要望があります。一つ目はやはり海外支部の方に名古屋大学の正しい情報を宣伝してもらいたいです。二つ目は、海外支部があるだけでなく、具体的に何か名古屋大学と海外支部の所属国との共同事業をすることです。三つ目は同窓生の組織から現地の技術ニーズにおける情報に基づき、このアジア地区



インタビューの様子

との技術交流に力を入れたいと思います。国内支部のご支援をいただくためには、会員の皆様を通じて、企業側と大学側の間に相互に期待する研究結果や人材のニーズなどにおける情報共有や情報交換を重視する必要があると思います。

(広報委員) 名古屋大学の地域貢献についてお話いただけますか？

(松尾総長) 今や中部地区は貿易出荷額でも全国のトップであり、自動車産業を中心としています。まず、第一に世界での有数なものづくり産業がこれだけ集積している地域の中核大学として、名古屋大学がこの地域に貢献できるのはものづくりのやり方です。世界のものづくりの方法はますます革命が起こっている今、やはり学問的かつ科学的な分析およびそれができる人材が必要です。いわゆるグローバルというローカルと世界に通用する人材育成が大事です。

私が総長になる前の産学官連携の責任者としての経験によると、今、中部地区でもずいぶん産学官連携をしています。アカデミアの関与をもっと積極的に進めた方がいいと思います。大学の研究成果を社会に実装しないとイノベーションは起きません。やはり大学にはこの二つの機能が必要だと思います。大学は産業力や社会実装について、もっと手法を変えて真剣に取り組んだ方がいいと感じています。実は国や産業界からもそれを求められているところです。大学の中でこれと基礎研究や教育を、バランスを取りながら互いに刺激し、それぞれを強くすることが大きな課題です。そのために、産学官連携をどのように松尾プランの中に組み込めばよいかについて、根本的に考える必要があります。

(広報委員) 本日は貴重なお話ありがとうございました。

名古屋大学における産学官連携 —社会的価値の創出に向けて— *Collaboration between Industry-academia-government in Nagoya University – Towards the creation of social value*

名古屋大学では産学官連携推進のため、様々な取り組みが積極的に導入されています。名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部長の財満鎮明先生に名古屋大学における産学官連携の取り組みの経緯とその組織に期待できることをご紹介します。

Nagoya University has been actively making various efforts for promoting cooperation between industry-academia-government. Dr. Zaima, Director of academic research & Industry-academia-government collaboration, introduces us history of these various practice.



名古屋大学
 学術研究・産学官連携推進本部長
 財満 鎮明

「高輝度で省電力の白色光源を可能にした青色発光ダイオードの発明」により、2014年度のノーベル物理学賞が赤崎勇特別教授、天野浩特別教授らに授与された。これは、本学でなされたGaNに関する長年の基礎研究の成果が、当時の新技術開発事業団の資金的援助を受けて豊田合成に受け渡され、青色発光ダイオードというデバイスとして実用化、さらには白色光源という形で社会実装に結び付いたことを讃えたものであり、まさに産学官連携の賜物というべき好事例である。このような研究開発が本学と地元企業との間の連携により結実したことには大きな意味があり、この地域のイノベーションに対するポテンシャルの高さを示すものであろう。

現在、世界的な産業構造の変化や社会的課題の顕在化などから、このようなイノベーションに対する期待が急速に高まっており、産学官連携の重要性が再認識されている。特に、われわれが現在抱えている社会的課題にはさまざまな要因が複雑に関係しあっており、その解決にはシステムの思考が重要となっている。従って、基礎研究からその成果の社会実装までのフェーズを、ビジョンや課題を共有しながら、同時並行的かつ連続的に推進することを可能とするオープンイノベーションが不可欠になってきている。

このような観点から、本学においても産学官連携の強化、イノベーションや研究成果の社会実装への貢献を果たすべく、この間、組織改革やさまざまな取り組みを行ってきている。ここでは、それらの一端について紹介させて頂くこととした。

一般的に言って、産学連携や産学官連携は必ずしも上手く機能していない面が多い。産側から良く言われることは、「学のシーズが見えない」ということであり、学側にいる者にとっては、「産の本当のニーズが何か」ということを必ずしも理解していない場合が多い。また、共同研究の場面においても産と学との意識のずれがしばしば問題となる。このような課題に対しては、学内の研究や研究者の情報を一元的に集約すると共に、産学官連携に対して組織的に対応できる体制や、産学の密接な対話の機会を増やすための場の設定などが必要になる。

従来は、本学の研究支援担当組織としては、科学研究費補助金の獲得などの基礎研究に対する支援業務を担当する研究推進室、産学官連携や知的財産権獲得などの支援業務を担当する産学官連携推進本部、研究内容を理解してマネジメント業務や支援業務を担当するユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレータ(URA)を束ねるURA室の三つがあった。本学では、これら三つの組織を統合・再編し、産学官連携コーディネータ(産連CD)、知財マネージャ、URA等の研究支援人材と機能を集約した学術研究・産学官連携推進本部を2014年1月に設立させた。この新しい本部では、図1に示すように、5つのグループから構成されており、基礎研究から応用研究、共同研究からベンチャー起業までを一貫して支援できる体制になっている。それに伴い、研究支援人材の数も22名から37名に増員した。このような体制を取ることで、より強固な研究支援人材群を形成し、文系から理系、さまざまな学内の研究者情報や研究情報を一元的に集約することができ、異分野が融合した社会課題解決型のプロジェクトに対しても大学全体として対応することが容易となっている。また、外部との窓口も一本化し、技術相談や学内のシーズへのアクセス等の対応も組織的に行うことが可能な体制になっている。

このような組織的な改革と同時に、産学が「ひとつ屋根の下(Under One Roof)」で密接な協同を図る仕組みとして、「産学協同研究講座・部門」という制度を発足させた(図2)。民間企業が大学内に講座・部門を設置する仕組みについては、これまでも寄附講座という制度があった。これは、企業が資金を大学に寄附して、大学の裁量で研究を行う講座を設置するというものである。一方、この新しい産学協同研究講座・部門においては、大学が企業から経費と人材を受け入れ、企業の裁量で研究方針・計画を

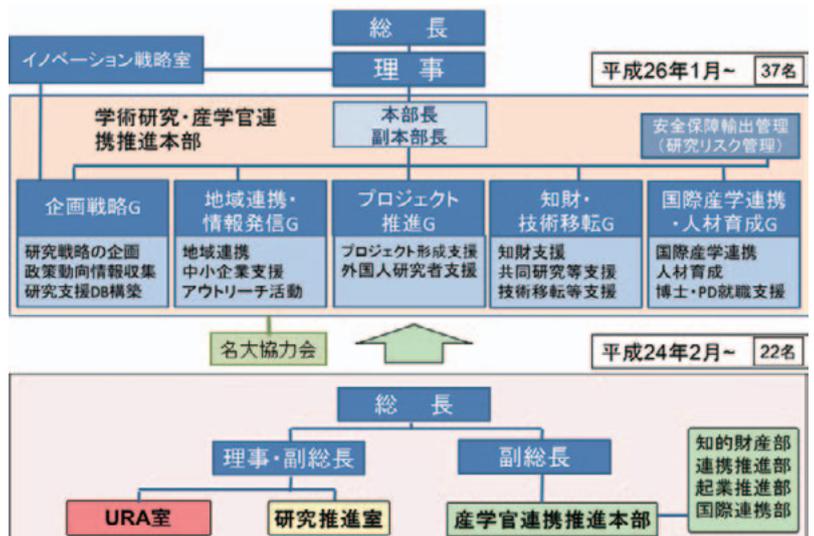


図1 学術推進・産学官連携推進本部の構成



図2 「産学協同研究講座・部門」の概要

決定する研究拠点を大学内に設置するものである。従って、機密性を確保しつつ独立した講座として運営できることが、従来の寄附講座と大きく異なる点であり、知的財産の権利帰属に関しても柔軟に対応できるようにしている。また、最新の研究設備を学内利用料金で利用できる等の利点がある。本制度によって、この1年半ほどに19講座が設置された。さらに、現在準備中のものが1講座あるなど、ほぼ順調に数を伸ばしつつある。設置された講座の分野としては工学系11講座、医学系5講座、創薬系3講座であり、企業業種は医療、製薬、化粧品、素材、自動車等となっている。

また、オープンイノベーション型の拠点の一例として、2013年10月に文部科学省の革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)において採択された、「多様化・個別化社会イノベーションデザイン拠点」がある。これに併せて、研究開発の実施場所としてのナショナル・イノベーション・コンプレックス(NIC)も整備された(図3)。このプログラムでは、10年先の社会的ビジョンを共有して、バックキャストにより個別の研究テーマや目標を設定し、革新的技術の創出とその社会実装を目指している。名古屋COI拠点のビジョンは、「高齢者が元気になるモビリティ社会」の実現であり、企業研究者がプロジェクトリーダーを務めるという体制の下で、産学官が連携した研究開発を進めている。産学官によるビジョンの設定や共有、バックキャストによる研究テーマの抽出は容易なことではないが、今までにはなかった考え方や研究開発の進め方を大学



図3 ナショナル・イノベーション・コンプレックスの外観

内に直接的に持ち込んだという点で画期的なプログラムとなっている。さまざまな課題はあるも

の、この経験がこれからのプロジェクトに生きるものと確信している。本学では、このCOIプログラムの推進のために、部局機能を有する「未来社会創造機構」を設置すると共に、先に述べた産学協同研究講座を活用している。本年6月に産学官連携拠点としての象徴でもあるNICが完成したことによって、文字どおりUnder One Roofでの研究開発を推進しているところである。機会があれば、NICを訪れて頂ければ幸いである。

以上のように、大学の産学官連携に対する姿勢は、社会的価値の創出に向けて大きく変わりつつある。同窓会の皆様方にもご理解を頂くと共に、ご支援やご協力、またご意見等を頂戴できれば幸いである。なお、学術研究・産学官連携推進本部や未来社会創造機構の詳細などについては、下記のWebサイトをご覧いただきたい。学術研究・産学官連携推進本部：<http://www.aip.nagoya-u.ac.jp/>名古屋大学研究シーズ集(unite)：

<http://www.aip.nagoya-u.ac.jp/unite/jp/>

未来社会創造機構：<http://www.coi.nagoya-u.ac.jp/>

サイマ シゲアキ
財満 鎮明 教授

略歴

1977年3月 東北大学工学部電子工学科卒業
 1979年3月 東北大学大学院工学研究科電子工学専攻修士課程修了
 1982年3月 東北大学大学院工学研究科電子工学専攻博士課程修了
 1982年4月 豊橋技術科学大学 助手(第三工学系)
 1986年8月 名古屋大学 講師(工学部)
 1989年6月 名古屋大学 助教授(工学部)
 1997年4月 名古屋大学 教授(先端技術共同研究センター)
 2004年4月 名古屋大学 教授(大学院工学研究科)
 2014年12月～ 名古屋大学 教授(エコトピア科学研究所)

2015年4月～ 名古屋大学 副総長(学術研究・産学官担当)(学内兼務)
 名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部長(学内兼務)
 名古屋大学 社会貢献人材育成本部長(学内兼務)
 名古屋大学 エコトピア科学研究所 副所長(学内兼務)
 名古屋大学 未来社会創造機構長(学内兼務)

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第24回は、本学理学部・理学研究科を修了、2008年度ノーベル物理学賞を受賞された日本学術振興会学術システム研究センター所長の小林誠さん、また、法学部を卒業され、本学全学同窓会監事・テミス綜合法律事務所弁護士の田中清隆さんにお話いただきます。

The “NUAL People in Action” column features our alumni/ae playing active roles in various fields. For our 24th edition, we will hear from Dr. Makoto Kobayashi graduated from Graduate School of Science is the winner of the 2008 Nobel Prize in Physics and Director of Research Center for Science Systems, JSPS, Mr. Kiyotaka Tanaka is a graduate of School of Law, Trustee of Nagoya University Alumni Association and Attorney of THEMIS Law Office.

こばやし まこと
小林 誠さん



■略歴

- 1967年3月 名古屋大学理学部物理学科卒業
- 1972年3月 名古屋大学理学研究科博士課程（物理学専攻）修了
- 1972年4月 京都大学理学部助手
- 1979年7月 高エネルギー物理学研究所助教授
- 2003年4月 高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所所長
- 2009年1月 日本学術振興会学術システム研究センター所長



小林さんとE研の仲間たち

●名古屋大学時代

— 名古屋大学を何故志望されたのですか？

素粒子理論で有名な坂田昌一先生のことは中学校くらいのころから知っていて、その研究室に行けたらいいな、という漠然とした気持ちはありましたね。だから、それほど悩まずに決めたのと、あと、受験を考えると相対的に楽だなと思っていました。テニスばかりやっていて、普通の意味での成績はそれほど良くなかったのです。

— 大学生活はどんな感じでしたか？

高校ではあまり勉強しませんでした。大学に入ってから、結構勉強した、というか、物理関係の本を読み漁っていましたね。授業は午前中に一コマだけで、そういう意味では時間が十分ありましたので、自分でいろいろな本を読んだ、という記憶ですね。ランダウ・リフシッツの教科書は揃えて、あとなんだろう、量子力学はいろいろな本を読み比べる、何か一つを読むというより、読み比べて概念を理解しよう、という感じなのかな。

— 名大生が大学院に進めるのはまれで難関でしたよね。

そうですね。試験日が全部ずれていて、どこの大学院の入学試験も、東大・京大の人たちと一緒に受けるという、そういうスタイルですね。だから、倍率は、結構すごかったですよ。上の学年は名古屋からほとんど入っていない。上の学年だと素粒子分野にはたくさんいるのですが、東大、東工大、…そういう人達。

— 物理E研（名古屋大学物理教室E研究室）に入れたころ、坂田先生はご存命でしたよね。

すでに理学部長で、お忙しく、研究室に出て来られるのは週に1回か2回、という感じですね。でも、ゼミの時には、一言二言、おっしゃるのを聴くのが良かった。坂田先生は僕がドク

ターの途中で亡くなられたのですが、最後の1年以上は入院しておられたので、マスターのころしか接する機会はなかったですね。

— 坂田先生からの影響は？

直接的ではないけれど、すごくありますね。研究室を通じて坂田グループの影響というか、まあ、そこで教育を受けたという感じですね。あの頃の大学院生は、みんな元気が良かったですね。僕の学年はE研には1人しかいなかったのですが、上の学年には4、5人いて、皆元気が良く、彼らに引張られていろいろやりました。

— Master Course のころは、どなたかが指導教員というのではなくて…

そうですね。理論で入った大学院生は、始めのころはいろいろな研究室を巡り、マスター論文を書くという時に、それぞれの研究室に入ります。僕は、益川（敏英）さんと大学院生がやっていたグループに潜り込んで、そこで一緒にマスター論文を書きました。

— 益川先生はその時、助手だったのですか？

大学院をでて、ポスドクというかPost Doctoral Fellowship (PDF) で2～3年間おられたのかな。PDFというのは任期付きの助手で、当時としては珍しい身分ですね。

— そのころの人事は大学院生も参加するのですか？

大学院生も入ります。選考から入り、さすがに人事委員会には入りませんが、研究室の中で、大学院生も一緒に議論します。

— そういう意味では、坂田哲学が反映されているのですか？

まあ、そうですね。もっとひどいのが、ブロック会議という会議があり、素粒子・原子核ブロックでどういう人事をやるかとか

たなか きよたか
田中 清隆さん



■略歴

1944年3月1日生
1968年 名古屋大学法学部卒業
1974年 名古屋弁護士会（現在愛知県弁護士会）入会登録
1990年 名古屋弁護士会 副会長に就任
1993年～1995年 名古屋弁護士会 民事介入暴力対策特別委員会 委員長を務める
1995年 日本弁護士連合会 民事介入暴力対策委員会 委員長に就任
1996年～2000年 警察庁審査専門委員を務める
2003年 名古屋弁護士会 会長・日本弁護士連合会 副会長に就任
2010年～2014年 日本司法支援センター愛知地方事務所長を務める

私の学生時代

私は昭和37年に法学部に入学しました。法学部に入ったのは、単に数学と物理が苦手だったという理由にすぎません。ただ、元々好きだった硬式野球部に入り、当時は愛知六大学野球一部リーグの捕手として、豊田講堂東の山の上にある野球場で、必死に練習しました。万年最下位が続きましたが、確か4年生の春のリーグ戦で名城大学を抜いて初めて5位になりました。東大が何十連敗しているのを見ても、これは画期的な出来事でした。家が貧しかったので、アルバイトにも精を出し、結局、授業に出られずに三年生進級時に留年してしまいました。そして、1年遅れで就職活動しましたが、これも思うようにならず、やむなく司法試験を目指すこととして、殆どやっていなかった法学の勉強をあらためて1年間だけは真剣に勉強しました。結局6年間かけて卒業し、野球部の大先輩のご紹介で、故吉田清弁護士が開いて下さった、働く青少年のための司法試験受験勉強会「清法会」で勉強させていただきました。その後、学習塾をやったり、早朝の魚市場でマグロ割りをしたりしながら、3年後合格することができました。

暴力団との戦い

私は、弁護士生活41年になりますが、その殆どは、一言で言えば「暴力団との戦い」でした。暴力団が行う、債権の暴力的取立、交通事故の過大な損害賠償請求、男女問題にからむ不当要求、競売や強制執行の実力による妨害、など様々のものがありますが、要は暴力団の威力を示して、不当かつ違法な収益を得ようとするものです。私は、現在までも、山口組組長らに対する損害賠償

請求訴訟を3件遂行していましたが、最近、うち1件は無事勝訴的和解を勝ち取ることができました。

警察の民事不介入の原則

何が一番大変だったか?と問われれば、警察の役割の代行でした。今でこそ、ちょっと暴力をふるったり、大声で脅せば、すぐに警察官が飛んで来て、特に相手が暴力団員であれば、厳格な現場対応により、とりあえず沈静化させてくれるので、その後法廷の場などで解決を図ればよいのです。しかし、平成10年代の中頃までは、「民事不介入の原則」が厳然として警察を支配しており、警察は原則として民事事件には関わらないとの姿勢であったため、暴力団員が、「てめえ、さっさと借りた金返さんか!」と深夜に大声で怒鳴っても、根底に民事紛争があれば、殴ったり蹴ったりの明らかな暴力さえなければ警察力は動かないのです。警察官を呼んでも「暴力をふるいましたか、怪我はありますか。」と問われ「いや、特に暴力をふるわれてません。怪我もしていません」と答えると、「民事には介入出来ません。よく話し合って、何かあったら、また連絡して下さい」と帰ってしまいます。

弁護士による深夜・休日の現場対応

しかしながら、暴力団により威嚇を受けるだけでも通常の市民は恐怖のとりことなり、それだけで平穏な生活や事業を継続することは不可能です。そこで、我々弁護士が現場に入り、警察の代わりとなって、暴力団をなだめたり、すかしたりしながら、何とかその場を沈静化させるのです。とりあえず現場を沈静させることができれば、あとで裁判所の力を借りて民事的紛争解決を図ることがで



野球部4年の時の同学年6名の写真（後列右端が筆者）



暴力団一カ一家追放の住民デモの写真（昭和58年頃）

きるのですが、まず、初期の対応で屈してしまうと終わりです。我々弁護士にとっても暴力団に対する恐怖自体極めて深刻ですが、加えてこうした威嚇行動は、被害者が在宅する可能性が高い、深夜や休日に実行されることが多いため、我々は、深夜、休日の区別無く対応しなければなりません。私は、被害者に呼ばれて家を出るたびに、今度こそ我が身に何らかの攻撃を受けることの覚悟を決めていました。もちろん単に対応すればおさまるとは限らず、暴力団に、日本刀で斬りかかられたり、組事務所の鉄シャッター内に連れ込まれ20数名の暴力団員に一晚中監禁・脅迫され続けたことなど、恐怖の体験は数えきれません。

弁護士と警察の協力体制の確立

一カ一家組事務所明渡事件

暴力団問題について、当初は、警察は弁護士を「金儲け主義の意気地なし」と見下していましたし、弁護士は警察を「暴力団と癒着して、本気で暴力団対策をやる気なし」と非難していました。そこで転機となったのは、昭和56年、浜松の暴力団一カ一家事務所の立退き訴訟でした。弁護団長を務めていた地元の弁護士が、一カ一家の組員に刃物で背中を刺されて瀕死の重傷を負い、他の弁護団員もパニックに陥りました。しかし、暴力団との戦いに立ち上がった住民を放置出来ないため、名古屋を中心に全国の弁護士が集まって活動を続けました。弁護団長だけでなく住民代表も、他の住民も次々と

襲撃され、さすがに警察も面子にかけて全面支援をしてくれました。事務局長として住民運動との接点にあった私も、約1年半、24時間常時4名の警官がシブカー2台でガードしてくれました。この裁判は、3年後には、住民側の勝訴的和解が成立し、一カ一家側は組事務所を撤去しました。全国初の成功例でした。この事件で警察と弁護士が、相互信頼と相互協力の重要性をあらためて痛感し、協力関係を築くことができたのです。その後は、暴力団対策法や暴力団排除条例の制定などにより、暴力団対策は著しく進展しました。いまや街中でも、かつてのような、いかにも暴力団員という風体の人物や、暴力団による葬儀などの威嚇的儀式を見かけることは殆ど無くなりました。

新たな課題

しかし、問題が全て解決した訳ではありません。振り込め詐欺や、集団窃盗、さらには貧困ビジネスなど、新たな課題は尽きません。何よりも暴力団が、偽装解散、偽装離脱、一般人の実行犯利用などにより、表面から見え難くなっていることが問題です。市民が団結し、勇気をもって暴力団被害をあぶり出し、警察と弁護士がこれに協力して確実に成果を挙げていかねばならないと、改めて痛感しています。私にはノーベル賞に輝く方のような華麗な活躍は到底できませんが、社会の底辺を少しでも浄化するために尽力したいと誓っています。

天野浩先生講演会が浜松で実施されました 「これからの産業と大学の役割」

名古屋大学全学同窓会
代表幹事
伊藤 義人



平成27年6月13日（土）15:00から、名古屋大学全学同窓会の国内支部の1つである名古屋大学遠州会主催で、静岡新聞・放送共催の天野浩先生講演会が浜松市の静岡文化芸術大学講堂で行われました。天野先生は地元、浜松西高校の出身ですが、ノーベル物理学賞受賞の知らせが届いても、遠州会役員の方々は講演依頼を遠慮されていました。実際にその後の数百に及ぶ天野先生への講演依頼を考えると、その遠慮は正しいものでした。しかし、郷里出身のノーベル賞受賞者の講演は必須と考え、全学同窓会から、遠州会の年1回の同窓会に併せて天野先生に講演依頼をしたところ快諾をいただき、今回の講演会が実現できました。

会場は、名大卒業生・修了生や浜松市民で満員でした。定員の2倍以上の希望者があり、一般市民は抽選になったそうです。地元の高校生の枠が設定され、多くの高校生も来場していました。講演に先立ち、遠州会の庄田会長と静岡新聞・放送の石田氏の挨拶がありました。

講演では、前半にスウェーデンの授賞式での1週間を、多くの写真をスライドで映しながら説明されました。この目的は、高校生に将来ノーベル賞を受賞したら、深夜まで行事が行われ、体力も必要だということを伝えるためでした。

平成26年12月6日にスウェーデンの空港に到着すると、アタッシュと呼ばれる人が飛行機の側まで車で出迎え、そのままノーベル博物館へ向かい、先生が学生時代に作ったという部品を寄贈されました。そこで記者会見をされましたが、記者150人の内、日本人は100名くらいだったそうです。2日目もストックホルム市内で記者会見をされ、英語での気の利いたコメントをすることが難しく、英語で言葉のキャッチボールができるくらいに勉強するよう、参加した高校生に言われました。3日目の午前中は、日本大使館で歓迎会があり、夜にはノーベルコンサートがありましたが、疲れて眠ってしまい、お嬢さんに怒られたというエピソードを話されました。12月9日には、科学イノベーション

高校で、いきなりの授業となりました。その後、赤崎先生が到着されたので、貸し切りの16両列車で、一緒にノーベル博物館へ行き、椅子の裏にサインをされました。

12月10日には、いよいよ授賞式の日を迎えました。白バイに先導され、信号を全て赤にして、ホテルから会場に向われました。大変緊張してしまい、事前に言われた段取りをすっかり忘れてしまったとのことでした。その後の、スウェーデン王立アカデミー主催の1300名出席の晩餐会では、シルビア王妃の隣席となり、勉強家の王妃から種々の質問を受けられました。11時に晩餐会が終わり、その後1時までダンスがありましたが、踊られなかったそうです。さらに深夜4時までスウェーデンナイトキャップがあったのですが、疲れてしまい2時にはホテルに帰られました。次の日は、ノーベル財団に行き、メダルとディプロマを授与されました。午後には、英国 BBC により世界の研究環境についてのインタビューを受け、ここでも英語でのアピールの必要性を感じたことを強調されました。夜は、王室主催の晩餐会が開催され、ヴィクトリア王女の隣の席だったそうです。

12月12日は、エネルギー庁へ行き、その後 NorraReal 高校で講演をし、夜はノーベル財団の最後の晩餐でした。トナカイの肉が出され、おいしかったという感想を述べられました。12月13日はオングストロームで有名な Uppsala 大学で講演をされました。次の日は、学生 (Student Union) 主催の Liciaball パーティーがあり、蛙跳びをさせられました。主催者の女性代表者の頭に本物の7本の火のついたろうそくがあり、あぶないと感じられたそうです。ノーベル賞のような国家行事に学生が主体的に参加することは、大変よいという感想を言われました。12月14日、15日は Lund 大学で Prof. Grimneiss (95歳) と会われました。そして、12月16日ようやく中部国際空港に到着されました。

講演の後半は、窒化ガリウム (GaN) の結晶創成を例に、次の産業のシーズ創成とボトムアップをどのようにするかの講演がありました。窒化ガリウムは、1959年にスウェーデンで会った Lund 大学の Prof. Grimneiss から始まりましたが、効率の悪い N 型が作られ、1970年代には多くの企業や研究者がトライしましたが、よい結晶が出来ず、1981年に赤崎先生が松下電器から名大に移られて、研究を継続されました。1982年の卒論学生として、天野先生は赤崎研に入られたそうです。4年生、M1、M2で1500回以上の失敗をされましたが、発光が個体素子になることは当然と考え、悲観的にならず楽しかった

と言われました。窒化ガリウム（ガリウムナイトライド）の結晶をサファイア基盤の上に作ろうとしても格子不整合が16%もありうまくいきませんでした。多くの失敗の後、ガスを高速に流して、AlN（窒化アルミニウム）をバッファ層にする際、加熱機の調子がわるかったので低温でバッファ層を造ったところうまく結晶ができたそうです。MOVPE（有機金属気相エピタキシー）装置も、買えば1億円もするため、研究費が足りず手造りしたということでした。赤崎先生に、うまくできた結晶を見せたところ、単にできただけではいけないので、きちんと評価しなさいと言われ、1年以上かけて150本以上の論文を読み、品質を評価して、1本目の論文を書かれました。

その後、p型 GaN を造ろうとして、Zn を微量元素として入れてもなかなか出来なかったそうです。豊田合成に実験機器を借りて週3回行き、そこで見つけた変形ポテンシャルに関しての所見で2本目の論文を書き、博士課程を単位修得退学して名大助手になられました。博士の学位には3本の論文が必要なので、Zn の代わりに Mg を添加して電子線をあてて p 型 GaN を造り3本目の論文を書き学位を取られました。その後、電子線ではなく熱処理で作成する方法が1991年に出てきたそうです。1993年に日亜化学から LED が初めて発売されました。

2030年には、照明の3/4が LED に置き換わり、日本全体で7%の省エネになるそうです。また、モンゴルの教育大臣からは電気のない地域でも LED と太陽光パネルと蓄電池で、子供達が夜も勉強できるようになったと感謝されました。将来の世界人口が100億人を越えると、水、食料、電力危機が予想されますが、LED が水の殺菌（深紫外線）や植物工場などに利用でき、直流と交流変換のインバーターにシリコンでなく GaN を使うと5%の電力ロスを0.75%に抑えることができ、合計9.8%の省エネルギーになるということでした。最後に、LED の光を直接脳内に当て、光に反応するタンパク質を使ってアルツハイマー病の治療に応用するという可能性についても触れられました。

質問の時間となり、司会者が事前に質問票をもらっていた高校生の数名を指名しました。1人目の高校生は、マイクを渡されると元気よく舞台上上がって来て、質問しました。

Q：失敗の中で続けられたモチベーションは？

A：実験をつらいと思ったことはなかった。楽しくて仕方なかった。成功イメージを持っていたので、やるのが当たり前と思っていた。



天野教授講演会場風景（写真提供 静岡新聞社）

Q：私は国語と社会が苦手ですが天野先生は？

A：数学しか勉強していなかった。国語と社会は、私もきらいだった。しかし、夏目漱石、森鷗外、小林秀雄など、本だけはたくさん読んだ。社会は歴史小説を思い浮かべて何とかした（笑）。

2人目以降の高校生は、座席で質問しました。

Q：研究で苦労したことは？

A：苦労したことはない。実験装置を自作したことも楽しかった。

Q：名古屋大学を選んだ理由は？

A：共通一次の成績を見て決めた。

Q：文理の選択に迷っていますが何かアドバイスは？

A：難しい質問ですね（笑）。どちらも意味があり楽しい。決めて突き進めばよいのでは。

Q：研究者にとって大事なことは？

A：公式に当てはめて答えを出すような物理はきらいだった。数学のように論理的に考える能力が大事だと思う。その意味で、本を読む習慣は役にたった。

Q：青色ダイオードに成功した理由は？

A：難しいことを知らなかった。長い研究の歴史の一部として集中してできた。従来からの長い積み重ねの上での成果だと思う。

ここまでで予定の16:45になり、大きな拍手で閉会しました。高校生だけでなく参加者全員にとって大変印象深い講演と質疑応答になりました。

大学支援事業目録贈呈

4月10日（金）、平成27年度第1回幹事会において、全学同窓会大学支援事業（平成26年度第2回）採択者に目録が贈呈されました。

今回は、14件の応募総数から、表の5件が採択されました。

事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会 HP でも公開されます。また、これまでに採択した事業を全学同窓会 HP で公開しています。

平成26年度第2回 採択事業

申請者所属・氏名		事業名
学生相談総合センター障害学生支援室 特任講師	(申請代表者) 佐藤 剛介	「多様な学生への理解促進・就業支援のための部門間連携事業」
国際教育交流センターキャリア支援部門 特任講師	今井 千晴	
学生相談総合センター就職相談部門 助教	船津 静代	
学術研究・産学官連携推進本部 ビジネス人材育成センター 特任准教授	森 典華	
文学部3年	井上 美里	グローバルプレゼンテーション大会 ～プレゼンテーションアワー 世界が広がる22秒～
附属図書館医学部分館長 (大学院医学系研究科 教授)	濱嶋 信之	「名古屋大学の先輩」コレクションの形成と展示会の開催
工学研究科 国際交流室 講師	Emanuel LELEITO	「留学生防災意識啓発のためのニュースレター」
工学研究科 教授	古橋 武	工学部電気系同窓会 二葉会会報 「赤崎教授・天野教授ノーベル物理学賞受賞記念特別号」の発刊



採択された事業代表者の方々

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部 NUAL Kanto Branch

関東支部は、東京神田の学士会館地下にある名大東京連絡事務所にて、各部局同窓生幹事による幹事会を開催しております。丹羽支部長を中心に、名大本部から伊藤代表幹事の出席も得て、同窓生や大学を支援するべく活動しております。

関東支部2015年度活動計画

1. 12月8日（火）に、学士会と共催で、坂田・平田ホールにて講演会、花の木にて夕食会を開催いたします。
2. 1月31日（日）に、昨年ノーベル物理学賞を受賞された天野先生と松尾新総長とお出でいただいたの講演・交流会を開催いたします。詳細は下記です。皆様のご参加をお待ちしております。

天野先生ノーベル物理学賞受賞記念講演・交流会

日時：2016年1月31日 場所：学士会館（神田神保町）

講演会：14：00－15：30 於202号室

演題 世界を照らす青色発光ダイオード（仮題）
名古屋大学教授 天野 浩

交流会：16：00－18：30 於210号室

ご挨拶 支部長 丹羽宇一郎
ご報告 「NU MIRAI 2020」について（仮題）
名古屋大学総長 松尾清一
特別出演 名大男声東京 OB 合唱団有志

ご参加の方は、2016年1月8日（金）までに、参加費8,000円（同伴者も一人あたり同額）を、下記あて、①振込人氏名の後に ②学部と ③最終卒年を記入してお振り込みくださるようお願いいたします。

例：東山太郎 法学部 平成10年卒



ヒガシヤマ タロウ、ホウ h10（昭和はs）

なお、ご同伴の方がいらっしゃる場合には、人数を一括してお振り込みください。

振込先 三菱東京 UFJ 銀行神田支店
口座種別 普通預金
口座番号 1202621
口座名義 名古屋大学全学同窓会関東支部

■連絡先 関東支部事務局長 片岡大造

E-mail kataoka@sol.dti.ne.jp

名大男声東京 OB 合唱団

2015年1月31日三鷹市芸術文化センター「風のホール」において2回目の単独演奏会を開催しました。

当日はシューベルトのミサ曲、高田三郎作曲の「水のいのち」、清瀬保二作品集などを演奏し大変好評でした。アンケートには次の演奏会を期待する声が多く寄せられ、団員一同あらためて練習に力を入れているところです。

私たちの団は関東に在住する名大男声 OBを中心として集まり、現在団員数25名、平均年齢70歳です。2004年名古屋で開催された名大男声創立50周年記念演奏会を機に合唱の感動と充実感を是非継続したいという思いから、東京 OB 合唱団として定期的な練習を今日まで続けています。

その間、学生時代共に活動した東北大・横浜国大 OBとのジョイントコンサートに参加、また私たちの第1回演奏会（東京・文京区 トッパンホール）そして一昨年には名大男声創立60周年記念演奏会（愛知 芸術劇場）で演奏するなどの活動をしてきました。ただ団員数の確保が現在の課題となっており、名大男声 OB 以外からも広く参加を募り、より多くの方と男声合唱の楽しさを共にしたいと考えています。合唱経験不問、詳しくは下記までお問合せください。

なお第2回演奏会については CD もありますので、ご希望の方はご連絡ください。

■連絡先 名大男声東京 OB 合唱団 木谷 孝

E-mail kitani423@nifty.com



演奏会本番

名古屋大学遠州会 NUAL Ensyu Branch

名古屋大学遠州会は2015年6月13日（土）午後、遠州会20周年記念「天野浩名古屋大学大学院教授特別講演会」を全学同窓会のご支援により、浜松市内の大学講堂にて地元新聞社と共催で開催しました。講演会には松尾総長、全学同窓会代表幹事の伊藤副理事、遠州会会員・家族・同窓生、地元高校生・教職員、企業・団体関係者、更に一般市民合わせて約480名が出席しました。講演の前半では高校生向けにストックホルムでの授賞式を含めた1週間の行事を写真を使用しながら説明されました。後半では青色LEDの開発経過とLEDの省エネや飲料水の確保、アルツハイマー治療への応用可能性について説明されました。講演後には高校生からの質問に快くお答えになり、素晴らしい講演会となりました。

引き続き夕刻より第20回遠州会同窓会を松尾総長、伊藤副理事、天野教授を来賓としてお迎えし、会員105名の出席を得て、市内のホテルで開催しました。松尾総長から名古屋大学の先端的研究活動、国際化の取り組み、産学官連携プロジェクトの活動、ご自身の今後の抱負など多岐にわたるお話があり、大学への理解が大いに深まりました。伊藤副理事からは全学同窓会フィリピン支部の設立、名大基金などについての説明がありました。その後の懇親会では来賓のお三方を交えて、世代を超えた会話が進み、さらにビンゴゲームで盛り上がり、和やかな会となつて、最後に記念写真を撮って終了しました。

■連絡先 名大遠州会事務局長 原田憲道
E-mail ensuhrd@yahoo.co.jp



記念写真

関西支部 NUAL Kansai Branch

名古屋大学全学同窓会関西支部設立10周年記念となる第10回総会が、5月16日（土）、大阪市内の中央電気倶楽部において開催され、会員約60名が出席しました。



橋本氏の講演

今回の総会では、10周年を記念した赤崎博士、天野博士のノーベル物理学賞受賞に関するパネル展示、ビデオ上映、名古屋大学のノーベル賞関連オリジナルグッズの販売などの多彩な企画を催し、出席者に大変好評を得ることができました。

総会は、三洋化成工業(株) 名誉顧問 寛 哲男全学同窓会関西支部長の開会挨拶の後、今年度より名古屋大学総長に就任した松尾清一総長から、「名古屋大学の現状と課題」と題した講演が行われました。松尾新総長は、「～日本屈指の大学から世界屈指の大学へ～」をスローガンとし、課題を実現していくための大学の重要な役割についてお話をされました。

次いで、伊藤義人全学同窓会代表幹事から、全学同窓会の昨年度の活動・財政状況の報告、および来年度の事業計画、今後の課題等についてお話がありました。

続いて、日本アイ・ビー・エム株式会社 橋本孝之副会長から、「IBMのグローバル経営と次世代IT技術がもたらす新たな社会」と題した講演が行われました。IBMの発展の大きな原動力となったダイバーシティの取り組みやワトソンプロジェクトなどの説明があり、会員の皆さんにとって大変刺激のある講演会となりました。

総会・講演会後の懇親会では、例年のように、部局支部同窓会の代表者からの近況報告があり、大変和やかなうちに終了しました。

(建制順)

関西名法会 (法学部)	恒例行事	年1回の総会・講演会・懇親会
		今年度の総会予定
	開催日時	平成27年10月24日（土） 講演会 11:30～12:30 昼食・懇親会 12:30～13:30
	場所	TKP ガーデンシティ大阪梅田 (JR大阪駅、阪急梅田駅各6-2番出口直結) 住所：大阪市福島区福島5-4-21 TKPゲート タワービル TEL 06-4400-5263
	講演	岐阜大学地域科学部 教授 近藤真 様 (S52年M卒) 演題「立憲主義のおさらい」
	責任者	(会長) 脇田喜智夫 (S50卒)
	問合せ先	(名法会事務局) office@goshominami.jp

関西 キタン会 (経済学部)	平成28年新年講演会・懇親会
	開催日時 平成28年1月16日 (土)
	場所 中央電気倶楽部 大阪市北区堂島浜2-1-25 TEL 06-6345-6351
	講演会 11:00~12:30 (講師とテーマは未定)
	懇親会 12:40~14:00
	問合せ先 (事務局) 竹村聡 E-mail: take55@office-tenjin3.com 天神橋税理士法人 TEL 06-6364-6626
	第58回関西キタンゴルフ会
	開催日時 平成27年11月17日 (火)
	場所 能勢カントリー倶楽部 兵庫県川西市東畦野字長尾1-3
	問合せ先 竹村聡 (連絡先は同上)
応化会 関西支部 (工学部 応用化学系)	恒例行事 平成28年5~6月頃 支部総会開催の予定 (開催日時、開催場所、その際の講演者などは未定)
	責任者/問合せ先 (支部長) 川嶋右次 (S39卒) E-mail: riverisland@zb.ztv.ne.jp
共晶会 関西支部 (工学部 金属・鉄鋼・ 材料工学系)	恒例行事 年1回の総会・講演会・懇親会
	今年度の総会予定
	開催日時 平成28年3月12日 (土) 11:00~14:00
	場所 阪急ターミナルスクエア・17 (大阪/梅田)
	講演 未定
責任者/問合せ先 (支部長) 樽谷芳男 (S51卒) E-mail: tarutani@nn.ij4u.or.jp (副支部長) 松井良行 (S57卒) E-mail: matsui.yoshiyuki@kki.kobelco.com (幹事) 加藤亮 (H09卒) E-mail: kato.p95tyo@jp.nssmc.com	
二葉会 関西支部 (工学部 電気学系)	恒例行事 年1回の総会・講演会・懇親会
	今年度の総会予定
	開催日時 平成27年11月21日 (土) 17:00~20:00 (予定)
	場所 中央電気倶楽部
	責任者 (支部長) 藤井眞澄 (S44卒) E-mail: fujii-m@kanden-plant.co.jp
問合せ先 二葉会 HP 又は、幹事 伊藤恵一 (H1M卒) E-mail: itoh.keiichi@nike.eonet.ne.jp	
東山会 関西支部 (工学部 機械系)	恒例行事 第53回総会及び講演会
	開催日時 平成27年11月7日 (土) 15:00~19:00
	場所 大阪コロナホテル (JR 新大阪駅東)
	問合せ先 (庶務幹事) 小川耕司 (S49卒) E-mail: champogw@mx4.canvas.ne.jp
鏡ヶ池会 関西支部 (工学部 土木工学系)	恒例行事 ・関西銀シャチ会 (60歳以上の会員親睦会です。和気あいあい楽しい語らいを楽しみにしています。)
	関西銀シャチ会予定
	開催日時 平成27年11月20日 (金) 18:30~21:00
	場所 がんこ阪急東通り店
	問合せ先 (支部長) 浜嶋鉦一郎 (S49M卒) E-mail: hama-kolro@docomo.ne.jp TEL 090-5137-3548
セコイア会 関西支部 (農学部)	恒例行事 年1回の総会・講演会・懇親会
	今年度の総会予定
	開催日時 平成27年11月7日 (土) 10:00~15:00
	場所 中央電気倶楽部: 大阪市北区堂島浜2-1-25 TEL 06-6345-6351
	講演 川北一人教授 (名古屋大学大学院生命農学研究科科長、農学部長) 演題: 未定
	責任者 (支部長) 加藤壽郎 (S45M卒)
	問合せ先 (幹事) 寺前朋浩 (S61M卒) E-mail: teramae@sc.sumitomo-chem.co.jp

■連絡先 関西支部事務局長 脇田喜智夫
御所南法律事務所 TEL 075-253-0777
E-mail office@goshominami.jp

関西キタン会「総会・講演会・懇親会」を開催

平成27年7月18日 (土) 午前11時、関西キタン会は総会・講演会・懇親会を大阪堂島の中央電気倶楽部にて開催。キタン会顧問・経済学博士の水谷研治先生 (S31) をお招きして、総勢26名の参加により開催。

総会では、入谷副会長 (S43) の司会で始まり、伊貝武臣会長 (S43) の開会挨拶、会計報告・事業活動報告・予算案の詳細説明があり、満場一致で承認。

名古屋大学経済学研究科客員教授の水谷先生から、「これからの日本経済 (アベノミクスのこれまでとこれから)」のテーマで1時間30分のご講演。経済学博士・経済評論家であり、国際金融と国際経済に精通された水谷先生は、アベノミクスの特徴と効果を分かりやすく解説。また、ギリシャ危機や中国の景気動向を含む世界情勢の流れと捉え方、外国為替相場の長期的な視点に立った見方、日本の国債金利動向の分析、世界中に借金国があふれる中で日本国債の異常な残高と今後の課題などを分かりやすく、論理的に解説していただき、大変勉強になりました。

懇親会は、伊貝会長の挨拶、竹内英夫 (S25) 氏の乾杯で楽しい懇親会を開始。山村常務理事からキタン会本部の近況報告、その後は今日の講演会テーマについて水谷先生と質疑応答。最後に恒例の名高商校歌と名大学生歌「若き我等」を参加者全員で斉唱しました。

■連絡先 竹村 聡
E-mail take55@office-tenjin3.com



関西キタン会総会の集合写真

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄付講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

名古屋大学東山キャンパス内における 古代窯業遺跡の発掘調査

申請代表者：梶原義実
(文学研究科・准教授)

構内に所在する窯跡のひとつである東山72号窯（ブックスフロンテ北側斜面地）について、平成26年6月には奈良文化財研究所と共同で電気・磁気・レーダー探査をおこない、同9月には発掘調査を、学生とともに3週間にわたっておこないました。残念ながら窯跡の本体は確認することができませんでしたが、花文を施した香炉蓋をはじめ、灰釉陶器や須恵器など、多くの遺物が出土いたしました。

その成果については、同窓会支援事業という性格を鑑み、平成26年10月18日のホームカミングデーで速報展示をおこなうことで、大学を訪れた多くの同窓生・学生・保護者の方にその成果を見ていただきました。

またこの試みは報道関係者の関心も引いており、平成26年12月12日および16日の中日新聞において、構内遺跡の調査について掲載されております。

このように、構内遺跡の調査成果が、同窓生をはじめ社会に還元されたことは、同窓会支援事業にふさわしい、大きな成果であったと思っております。



発掘調査風景

工学部航空学科75周年記念事業

申請代表者：吉川典彦
(工学研究科・教授)

- (1) 創立75周年記念講演会「人工衛星」 2014年10月18日
 - ・ 準天頂衛星システム初号機「みちびき」の研究開発について JAXA 小暮聡氏
 - ・ レーザー送電実証衛星「Prometheus」
名古屋大学 M2 浅井崇君
 - ・ 次世代宇宙工学のための非線形制御理論とその実証実験
名古屋大学 坂本登氏
 - ・ 太陽観測衛星「ひので」の成果とそれを支えた日本の衛星技術 三菱電機 吉田憲氏
- (2) 創立75周年記念式典 2014年11月1日
学内教職員、航空学科同窓生、来賓、一般参加者の多数の参加者を得て、航空学科創立75周年を祝った。
記念講演「イプシロンの挑戦」 JAXA 森田泰弘氏
- (3) 創立75周年記念講演会「飛行機の安全航行」 2015年7月10日
 - ・ JAXA 航空技術プログラムの概要と乱気流事故防止システム JAXA 張替正敏氏
 - ・ 電子航法の現状と将来展望 電子航法研究所 山本憲夫氏



記念式典参加者

名古屋大学国際化推進のための 教職員研修

申請代表者：渡部留美
(国際教育交流本部・特任准教授)

名古屋大学の更なる国際化推進は喫緊の課題となっています。大学教職員が国際教育交流関係の種々のプログラムの企画・運営、外国人留学生や研究者の受入業務について必要な専門的知識や能力を身につけられるよう、研修会(全5回)を開催しました。第1回は、平成26年6月27日(金)に「学生の海外派遣と人材育成」と題し、一橋大学国際教育センター阿部仁先生、本学国際教育交流センター岩城奈巳先生より、学生の海外派遣プログラム作りと運営、派遣の意義について講演いただきました。第2回は、7月7日(月)に「国際教育交流の基礎」と題し、本学教職員4名が講師となり、国際教育交流担当初任者を対象としたワークショップ形式の研修を実施しました。第3回は、10月17日(金)に「本学同窓生(元留学生)による講演会」と題し、香川大学留学生センター長ロン・リム先生、本学ハラスメント相談センター葛文綺先生、本学法政国際教育協力研究センターコン・テイリ先生に名大で留学生として過ごした経験や現在の業務について語っていただきました。第4回は、12月12日(金)に「中級者研修:留学生アドバイジングとプログラミング」と題し、ある程度経験を積んだ担当者向けに、留学生へのアドバイジングと日本人学生を巻き込んだ国際交流プログラム作りについてワークショップ形式の研修を実施しました。第5回は、平成27年2月23日(月)に「グローバル化する大学の職員像」と題し早稲田大学大学院アジア太平洋研究科事務長高橋史郎氏をお迎えし、大学教職員のミッションや教職協働のあり方について、抱負な経験を元に語っていただきました。



国際教育交流業務に関する教職員研修の様子

参加者については、毎回20~40名でしたが、国際交流関係部署のみならず、学生の海外派遣プログラムをもっている部署の教職員、国際交流での業務に興味のある職員など、様々な部署からの参加がありました。また、三重大学、愛知教育大学との三大学連携推進の関係から、これら二大学にも声をかけ、第4回は、JAFSA(国際教育交流協議会)との共同開催としたため、他大学からの参加もありましたが、貴重な情報交換や課題共有の場となったと感じています。

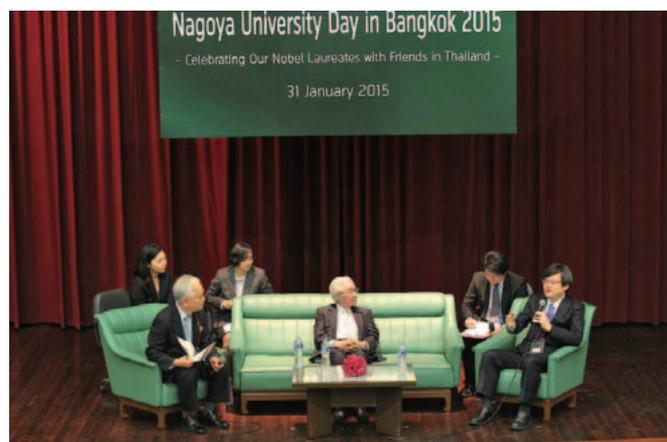
第3回は、本学の修了生であり、日本の大学で国際教育交流と関係の深い部署で活躍されている元留学生に講演いただきました。当時留学生であった彼らを知っている教職員が出席され、久しぶりの再会を果たし、互いに当時は懐かしく振り返っている姿がみられました。この会は、全学同窓会支援事業ならではの内容であったと思います。最後になりましたが、研修会実施にあたり、名古屋大学全学同窓会支援事業より多大なるご支援をいただきましたことを感謝します。

名古屋大学ミニホームカミングデイ in バンコク

申請代表者：渡辺芳人
(国際教育交流センター国際教育交流本部・バンコク事務所 所長/理事)

タイバンコクにおいて「名古屋大学フェア in バンコク」(事業申請当時から名称変更)を開催した。イベントとして、バンコクの高校生向けの模擬講義(工学、農学、経済、文学)をチュラロンコン大学にて実施し、これを通して名古屋大学の英語による講義を疑似体験することで、本学への興味関心を高め、リクルートに繋げた。

ブースでは、パネル展示による本学の紹介や担当者による



ノーベル賞受賞者対談

留学相談の実施や、習字・生け花・折り紙の体験コーナーを設け、名古屋大学や日本文化を学生のみならず一般参加者にも広く紹介した。

メインプログラムにおいては、タイ教育省副事務次官、協定大学の学長はじめ関係者、在タイ日本大使館関係者、日系企業、高校生、一般市民が広く参加し、濱口総長、渡辺理事、AO担当者による本学の説明、天野教授の特別講演会、天野教授・益川特別教授によるノーベル賞受賞者対談を行った。参加者からの質問も多く、本学への興味関心が非常に高いことを実感し、タイにおける本学の知名度を高め、今後の学生獲得や学術交流の発展に寄与した。

就サポ presents

～これからのキャリアについて共に考える

申請代表者：船津静代
(学生相談総合センター 就職相談部門 助教 (就職相談員))

名古屋大学就活サポーター OB・OG (社会人1年目から30歳前後の名大卒業生) と在学生との座談会を開催した。名古屋大学在学中に就活サポーターとして活躍し、現在は一流企業の最前線で活躍している同窓生30名が、後輩である在学生40名と現在の仕事やキャリアについて語り合う機会を提供した。自分の価値観を基に様々な人の価値観を知り、考え、話すことで「自分にとって大事な何か」に気づききっかけやこれからの大学生活を送るにあたってのヒントを在学生に提供する

ことができ、アンケートからも「なかなかじっくり聞く機会がない社会人の先輩の話が刺激的だった」(学生)。「学生や同窓生と語り合うことで自分のキャリアを見つめるよい機会になった」「学生の進路を考える役に立ってよかった」(OB・OG)。など参加者全員から高い満足度の回答が寄せられた有意義な催しとなった。

今回全学同窓会からの支援によって、旅費の手当ができたことで、なかなか参加が難しいが学生のモデルになる首都圏・関西で活躍している卒業生の参加が可能となり、これが刺激となって開催前から卒業生間での参加に関するやりとりが活発になり、結果、昨年不参加で今年参加となった者が全体の三分の一となった。参加した卒業生全員が「来年も参加したい」と答えており若手同窓生のホームカミングデーへの参加の契機としても効果的な企画となった。



先輩のキャリアに思わず前のめりになって聞き入る

同窓会・大学行事カレンダー

全学同窓会、部局同窓会、及び、大学に関する行事が下記のとおり開催されます。

詳細は、全学同窓会ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

○関東支部

1) 平成27年度 名古屋大学 鏡ヶ池会 東京支部総会
土木系卒業生の同窓会である鏡ヶ池会の東京支部 (会員600名以上)の年間最大行事である支部総会です。平成26年度は94名が参加しました。

日 時：平成27年11月20日 (金) 18:30~20:30

場 所：主婦会館プラザエフ B2F クララルテ

<http://www.plaza-f.or.jp>

〒102-0085 東京都千代田区六番町15番地

TEL. 03-3265-8111 (代表)

FAX. 03-3265-8581

JR 四ツ谷駅 麴町口前 (徒歩1分)

東京メトロ南北線/丸ノ内線 四ツ谷駅

(徒歩3分)

連絡先：YSC 株式会社横河システム建築
企画&監査 寺尾圭史(てらお けいじ)
〒299-0268 千葉県袖ヶ浦市南袖11番
TEL. 0438-62-6421 FAX. 0438-62-5441
E-mail: k.terao@yokogawa-yess.co.jp
URL: http://www.yokogawa-yess.co.jp

2) 第18回名古屋大学農学部同窓会関東支部総会

特別報告：名古屋大学と農学部・生命農学研究科の現況と発展

名古屋大学 副総長 前島正義 先生

特別講演：生命における水の役割と水分子の膜透過について

名古屋大学 副総長 前島正義 先生

特別企画：スポーツ吹矢で健康増進—講演と実技指導—
一般社団法人 スポーツ吹矢協会
常務理事 山田信彦 講師 外

日 時：平成27年11月28日(土) 13:10~17:10

場 所：學士會館203号室

〒101-8459 東京都千代田区神田錦町3-28

主 催：名古屋大学農学部同窓会関東支部

連絡先：E-mail: alum-kan@agr.nagoya-u.ac.jp

3) 東京キタン会 秋の催事ご案内

「横須賀軍港巡りと三崎港まぐろ料理」を楽しむ会

日 時：平成27年11月14日(土) 9時~16時

集合場所：横浜駅西口天理ビル(貸切バス利用)

会 費：8,000円

申し込み締切日：平成27年10月23日(金)

連絡先：東京キタン会事務局 森本重彦

Tel: 050-5803-8703

E-mail: Mrmsg00@ae.em-net.ne.jp

○名古屋大学遠州会第11回総会&第21回同窓会

総会終了後懇親会を開催します。

日 時：平成28年6月18日(土) 18:00~

場 所：オークラアクトシティホテル浜松

連絡先：名古屋大学遠州会同窓会事務局長 原田憲道

E-mail: ensuhurd@yahoo.co.jp

○名古屋大学文学部・文学研究科同窓会 秋季サロン

『これがガッテン流! 健康法の極意だ ~不老町で不老長寿宣言! ? ~』

元NHK「ためしてガッテン」専任ディレクターの北折一さん(1987年社会学卒業)に「健康法成功のための必勝ワザ」をたっぷりお話ししていただきます。入場無料、一般の方も大歓迎!

日 時：2015年10月17日(土) 14:00~15:30

会 場：名古屋大学文学部・文学研究科2F 237講義室

主 催：名古屋大学文学部・文学研究科同窓会運営委員会

URL: http://www.lit.nagoya-u.ac.jp/~bun-doso/

Nagoya_University_SchoolofLetters_

AlumniAssociation/o_zhirase.html

連絡先：FAX: 052-789-2666

E-mail: bun-doso@lit.nagoya-u.ac.jp

○全学同窓会・学生会主催 講演会・夕食会

日 時：2015年12月8日(火) 16:00~17:30

場 所：名古屋大学理学南館 坂田・平田ホール

講演者：宮池克人副会長

題 目：「高速道路^{よもやま} 四方山話

~名神高速道路が全線開通して50年 高速道路の過去・現在・未来~」

夕食会

日 時：2015年12月8日(火) 18:00~20:00

場 所：グリーンサロン東山 レストラン花の木

*詳細は、名古屋大学全学同窓会 Web ページ

(http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/lecture2015_miyaike.html)、

Facebook ページ

(https://www.facebook.com/nualface)

にてご確認ください。

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費 Supporting Fee

支援会員 Supporting member : 一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

○支払い方法

郵便振替 Post Office Account 口座番号：00860-8-113043

自動引落 利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

「名古屋大学カード」の入会のご案内

～名古屋大学カードで繋がる大学支援～

全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化・大学支援の充実を目指し、「名古屋大学カード」を発行しており、利用金額の一部が同窓会に還元されます。

◆名古屋大学カード～ゴールド～

入会者は**12,500名**を超えています。



年会費永年無料! 家族会員様も1名様に限り無料。
ポイントがたまる! 家族会員様のご利用分もまとめて本会員様へ付与。

- 国内・海外旅行傷害保険付帯 最高3,000万円
- ショッピング保険 年間補償限度額 200万円
- 空港ラウンジサービス

◆名古屋大学 MUFG CARD Platinum American Express® Card

プラチナ会員様限定の上質なサービスと快適性を兼ね備えた、最高の1枚。



- プラチナ会員様専用の特別なサービスを多数ご用意
- 初年度年会費半額優遇キャンペーン実施中

20,000円(税別) ⇒ 10,000円(税別)

※キャンペーン期間が延長となりました! 2016年3月31日(木)まで
名古屋大学全学同窓会事務局 入会申込受付分まで

～プラチナ会員様専用の特別なサービス～

- ・プラチナ・コンシェルジュサービス
- ・海外空港ラウンジサービス プライオリティ・パス
- ・プラチナ・グルメセレクション

入会方法について

① WEBからのご入会を希望の方

名古屋大学全学同窓会 HP からお申込みください
⇒ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

② 入会申込書からのご入会をご希望の方

名古屋大学全学同窓会へ入会申込書をご請求ください
⇒ TEL/FAX: 052-783-1920 (受付: 9:00~17:00)

名古屋大学 MUFG カード・プラチナ・アメリカン・エクスプレス®・カードはアメリカン・エクスプレスのライセンスに基づき三菱 UFJ ニコス株式会社が発行・運営しております。「アメリカン・エクスプレス」はアメリカン・エクスプレスの登録商標です。

●カード優待サービスの企業を募集しています。

●ニューズレターへの企業広告を募集しています。

いずれも詳細は全学同窓会事務局へお問い合わせください。

編集後記

今号特集の名古屋大学における産学官連携に効率的に対応できる取り組みは、読者の皆様には「学の貢献」が見える名古屋大学の産学連携の仕組みとしてご理解いただけたのではないかと思います。4月に就任された松尾総長へのインタビューは先生の改革家精神と、名大を世界屈指の大学にしたいという熱意を伺える意味深い内容です。活躍する会員たちのコーナーでは、2008年度ノーベル物理学賞を受賞した小林誠会員と弁護士の方の田中清隆会員より思い出深い話を頂きました。各支部より様々な活動の報告を頂き、豊富な内容となりました。(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter No.24 平成 27 (2015) 年 10 月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@adm.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集：名古屋大学全学同窓会広報委員会